

新人紹介

皆様、初めまして。本年の4月1日付けで江の島丸の機関部に配属された岩本です。

いきなりですが、皆様は「漁業調査指導船」とはどのような仕事をする船か、御存知でしたか？恥ずかしながら、私は全く知りませんでした（笑）

もともと私は、商船（貨物船やフェリーといった船種）に乗っていて、同じ船員といえども、漁船や漁業の知識は全くありませんでした（ココが重要）。

江の島丸に配属されると知った時も、その直前まで、水質調査（海水の採取や温度計測など）や魚類調査（魚を数匹捕まえて、生育状況等を調べるなど）をする船と漠然と知るのみで、いわゆる「調査船」というイメージしかありませんでした。

そんなイメージを抱きながら、いざ配属された時の感想はというと、「漁船だった…」の一言に尽きました（笑）

さあ、ここから正に右も左も分からない新人の漁船員の生活がスタートするのです。

（日々の業務）

私の業務は、大まかに言うと機関当直と船上作業です。船上作業には、漁労作業と観測作業などがあります。

・機関当直

主機（エンジン）や補機（発電機）といった船の設備が、通常通りの運転がなされているかを監視する業務です。機関部の人たちで、交代してその任にあたります。この業務は、だいたいどの船でも共通の作業ですので、私にとって一番馴染みがあります。ただ、当直中に一人で対処できない故障などが発生した場合は、機関部の人たち皆で、修理にあたります。

船が時化などで動かせない時は、整備作業に代わります。



・漁労作業

いわゆる漁です。本船では、サバ、ムツやメダイなどの底魚、マグロ類などの資源調査を行っており、本船の中心的な業務です。現在までにサバの資源調査を経験しましたが、私には漁労作業の経験が全くないため、一番苦勞させられる業務となっています。力仕事も多く、非力な私にとって辛い業務です。今のところ、「コマセ」と呼ばれる魚のえさを、機械（下の写真）にかけてミンチ状にするのが主な役割です。肝心の漁の方は、まだまだですかね（泣）。



・観測作業

毎月、月始めの数日間は、水温・塩分・溶存酸素量・クロロフィル量・流向流速(潮の流れの向きや速さ)等といった海洋に関するさまざまな項目の観測作業を行います。特に担当が決まっているわけではないのですが、いつも私はネットを使って、海水中のプランクトンを採集する作業に従事しております。



簡単ではありますが、以上が私の業務です。

まだまだ未熟な点が多い私ですが、これからも県民の皆様のご期待に添える様頑張っておりますので、何とぞよろしくお願い致します。